

- 若年期から高齢期に至るまでの予防・健康づくりのため、以下を推進。
  - ・全世代型健康診断等によるプロアクティブケア推進
  - ・ウェアラブル端末などの活用による健康データの利活用
  - ・保険者と事業主の連携（コラボヘルス）の深化
  - ・若い時期からのプレコンセプションケア※ ※男女ともに性や妊娠・出産に関する正しい知識を身に付け、健康管理を行うよう促すこと。
- 健康寿命を延伸し、生涯活躍できる社会づくりを推進。  
あわせて、健康・医療分野の産業化（HX※）を進める。 ※ヘルスケア・トランスフォーメーション

## 現状・課題

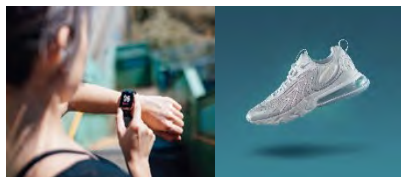
- 保険者や自治体の取組により、概ね全世代が受診可能な体制を提供。一方で、仕組みがあっても受診しない人が一定割合存在。
- 将来の人生設計・キャリア設計を行う上で、若年期からの健康管理を促すことが重要。

## 期待される効果

- 若年世代が自らの生活や健康に向き合うことで、将来にわたっての健康意識が高まる。
- 若年期からの予防・健康づくりにより、健康寿命の延伸・生涯活躍社会づくりが進む。
- ウェアラブル端末に記録されるライフログデータの活用など、健康・医療分野の産業化（HX※）が進む。

※ヘルスケア・トランスフォーメーション

### ウェアラブル端末による健康管理



### ウェアラブル端末の活用



予防・健康づくり



ライフログデータの記録

### ライフステージに応じた健康管理



希望に応じて「活躍」を推進する観点からの政策総動員  
(社会保障制度改革・データヘルス・予防・健康づくり推進・両立支援・就労支援等)